

ルモノト看做ス

第五條 第二條及前條第一項ニ於テ國民學校ノ初等科

若ハ高等科又ハ公學堂ノ初等科若ハ高等科トアルハ

關東州ニ於ケル之ニ準ズベキモノヲ含ム

附則

本令施行ノ期日ハ大使之ヲ定ム

〔參照〕

昭和十三年四月一日公布法律第五十五號國家總動員法

抄録

第六條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルト

キハ勅令ノ定ムル所ニ依リ從業者ノ使用、雇入若

ハ解雇、就職、從業者ハ退職又ハ貸金、給料其ノ

他ノ從業條件ニ付必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

國民職業能力申告令改正の件公

布

國民職業能力申告令改正の件は、昭和十八年六月

九日付官報を以て左の如く公布せられた。

國民職業能力申告令改正ノ件

(昭和十八年六月八日
勅令第四百八十八號)

國民職業能力申告令中左ノ通改正ス

第十七條ニ左ノ一項ヲ加フ

前條ニ掲グル國民勞務手帳法ノ施行ニ關スル規定ハ

臺灣及南洋群島ニ在リテハ各之ニ相當スル法令ノ規

定トス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

昭和十四年一月七日公布勅令第五號國民職業能力申告

令抄録

第十六條 要申告者(第二條第六號ニ該當スル者ヲ

除ク)ニ付國民勞務手帳法施行令第一條、同令附

則第二項又ハ昭和十六年勅令第七百五號附則第二

項ノ規定ニ依リ申請アリタルトキハ第四條第一項

ノ規定ニ依リ申告アリタルモノト看做ス

要申告者(第二條第六號ニ該當スル者ヲ除ク)ニ付

國民勞務手帳法施行令第十四條、第十六條、第二

十條又ハ第二十一條第一項ノ規定ニ依リ報告アリ

タルトキハ第四條第二項又ハ第六條ノ規定ニ依リ

申告アリタルモノト看做ス

勤勞顯功章令改正の件公

勤勞顯功章令改正の件は、昭和十八年六月二十四日

付官報を以て左の如く公布せられた。

勤勞顯功章令改正ノ件

(昭和十八年六月二十三日
勅令第五百二十七號)

第一條 勤勞顯功章ハ工業、鑛業(砂鑛業及土石採取

業ヲ含ム)、農林畜水産業、交通業(通信業ヲ含ム)

若ハ商業(之ニ準ズル事業ヲ含ム)ニ従事スル者(以

下勤勞者ト稱ス)又ハ其ノ團體ニシテ平素其ノ職務

ニ精勵シ勤勞報國ノ實ヲ擧ゲ他ノ模範タルモノニ之

ヲ授與スルモノトス

前項ノ規定ニ依ルノ外勤勞顯功章ハ勤勞者又ハ其ノ

團體ニシテ危難ヲ顧ミズ其ノ職責ヲ盡シ其ノ行爲他

ノ模範タルモノニモ之ヲ授與スルコトヲ得

第二條 勤勞顯功章ハ徽章及賞狀ノ二種トシ之ヲ受ク

ベキ者勤勞者ナルトキハ之ニ對シ徽章ヲ、團體ナル
トキハ之ニ對シ賞狀ヲ授與スルモノトス
徽章ノ形狀及制式並ニ賞狀ノ様式附圖ノ如シ

第三條 勤勞顯功章ハ主務大臣之ヲ授與ス

第四條 徽章ハ之ヲ右肋ニ佩ブルモノトス

第五條 本令ニ定ムルモノヲ除クノ外勤勞顯功章ノ授

與、返納其ノ他勤勞顯功章ニ關シ必要ナル事項ハ主

務大臣之ヲ定ム

第六條 本令中主務大臣トアルハ第二項及第三項ニ規

定スル場合ヲ除クノ外厚生大臣トス

本令中主務大臣トアルハ農林畜水産業ノ勤勞者又ハ

其ノ團體ニ關シテハ農林大臣、船員及航空機職員又

ハ其ノ團體ニ關シテハ逓信大臣トス

本令中主務大臣トアルハ前項ニ規定スル場合ヲ除ク

ノ外第一條ノ規定ニ依ル事業ノ經營者(經營擔當者

ヲ含ム以下同ジ)若ハ其ノ團體又ハ經營者ト他ノ勤

勞者トノ團體ニ關シテハ其ノ事業ノ主務大臣トス

但シ工場事業場管理令ニ依リ管理スル同令ノ工場事

業場ニ關シテハ當該管理ノ主務大臣トス

第七條 本令中主務大臣トアルハ國ノ事業ニ使用セラ

ル勤勞者又ハ其ノ團體ニ關シテハ前條ノ規定ニ拘

ラス其ノ事業ノ主務大臣トス

第八條 本令中主務大臣トアルハ工場事業場管理令ノ

主務大臣ガ陸軍大臣又ハ海軍大臣タル場合及陸軍又

ハ海軍ノ事業ニ使用セラルル勤勞者又ハ其ノ團體ニ

關スル場合ヲ除クノ外朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺

灣ニ在リテハ臺灣總督、關東州ニ在リテハ滿洲國駐劄

特命全權大使、南洋群島ニ在リテハ大東亞大臣トス

附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス